

令和4年度第1回みやぎ観光振興会議仙台圏域会議 委員等発言要旨

日時：令和4年6月9日（木）午後2時から

場所：仙台合同庁舎1001会議室

富谷委員

- 大変うまくまとめている。
- 仙台圏域は非常に範囲が広くて具体的な方向性が示しづらいが、例えば交通インフラが整備されているために連携や利便性が他の地域より抜きん出て便利であるというところ、旅行客にプラスになるというところが具体的にできると良い。

事務局（仙台地方振興事務所）

- 交通関係者等と情報共有し、具体的な施策を展開していきたい。

佐々木委員

- 名取市と山形県上山市は姉妹都市で、催事等で物販の交流の機会が多くある。そこにはたくさんの方が集まり、我々の商品を待っていると感じられる。仙台圏域の施策に仙山交流の取組についての記述があるが、特に物販は利益に直結するものであり、山形での活動をもっと活発化してもらいたい。

事務局（仙台地方振興事務所）

- 山形との交流については、構成市町村と連携して相互に観光物産販売会を開催する取組を行っている。また、今年度は相互の観光スポットの周遊を図ることを目的に、デジタルスタンプラリーの取組を行うことで、仙山地域相互の取組をより一層進めていきたい。

早坂委員（代理者）

- 宮城県の観光統計資料について、観光地点の抽出方法やその見直しが行われているかをお聴きしたい。
- 県補助金申請の際に根拠資料として観光統計の数字を使用したがるが、現在掲載されているポイントとは関連性が薄かった。施策の中に観光関連事業の記載があると思うが、観光関連事業者のポイントを増やしてもらえれば事業者側もありがたいし、ひいては起業促進にもつながっていくと思う。

事務局（観光政策課）

- 観光統計は、市町村が定点を決定し、毎年の観光客入込数を報告してもらっている。経年の変化を見るため、毎回その場所を変えるのは難しい。ご指摘の点は、どのような形で役に立つデータが提供できるのか相談に応じていきたい。

林委員

- プラン最終案の中で数値目標が示されたが、以前は新型コロナウイルス感染症の状況を見ながらコロナ禍以前の状況まで戻すという目標だったと思う。しかしながら昨今、コロナは落ち着きを見せ、インバウンド緩和などの動きもあり、また各国も正常に戻りつつある状況にある。今回、成長目標というその上の目標も示されたが、その考え方をお聞きしたい。
- また、計画した時点から急激に状況変化しているが、数値目標を再考する考えはあるかをお聞きしたい。

事務局（観光政策課）

- 中間案の段階では令和元年水準までの回復を目標にという定性的な表現でまとめたが、最終案を取りまとめる段階で、訪日外国人観光客の水際措置の緩和の動きもあり、令和元年の状況まで回復させるという視点と訪日外国人観光客の受け入れ再開等インバウンドを巡る急激な動きの中での成長の視点も必要ということになった。成長戦略のところは、宿泊観光客数等について、県全体に占める割合の大きい仙台市の観光計画と整合性を図った形で数値を示した。
- インバウンドの動きが急速に回復していった際には、社会的な動きもしっかり見据えながら、目標指標が適切か判断したい。

島谷委員

- 社会が急激な大きな変化をする中で、先を見越した計画となっている。各圏域の声も細部にわたって網羅されている。
- この計画は、観光事業者の方だけで成し遂げられるわけではない。宮城県に多くの方にいらしていただくことは私たちの生活にとっても大事なことだということ、その計画を進めているということを知ってもらうことが非常に大事だと思う。県民の皆さんへの周知の方法について検討願う。
- 成長戦略2の(2)の人財育成について、高校や大学との連携によって未来の観光人財

の育成を行うことは大事なことだと思う。コロナ禍に大学生を送っている学生は、不安なまま社会に飛び出していくような状況にあり、自分に身近な存在の観光業に光を求め、目指す学生は多いと思う。ぜひ宮城県から観光の人財をたくさん輩出するような施策も広めていただきたい。

- 高等学校の人財育成において括弧書きで観光科・商業科と括弧しているが、観光業は裾野が広く、普通科やその他の科においても観光にかかわる仕事を目指す生徒はたくさんいると思うので、幅広く対応していただきたい。
- プラン 11 ページにアンケート調査の結果が示されているが、県外客に比べて宮城県民が観光地としての宮城県の満足度・推奨度が著しく低いという結果はたいへん深刻であり、現状分析が必要と思う。自分たちの地域の素晴らしさを認識している地域はリピーターが増えると考えられるので、現状分析についての調査を深め、反映してほしい。

事務局（観光政策課）

- 普及啓発の部分についてはご指摘のとおりであり、ホームページや様々な媒体を活用しながら、多くの方々にプランを理解していただくように努力したい。
- 高等学校の観光科、商業科、大学と記載したのは、国の学習指導要領の改訂により高等学校の商業科において観光ビジネスを履修することになったため、まずは商業科の高等学校での取組を行い、徐々に横展開できればと考えている。
- 県民が地域に誇りを持ってもらうという観点は非常に大事だと思っている。そうした中で、県内の観光を理解してもらうためには子供の段階から県内の魅力ある観光に触れてもらう機会が重要であるが、最近、子供連れのファミリー層が県内旅行をしなくなった傾向にあることに問題意識を持っており、その層が域内を流動することを促す取組を進めて参りたい。

馬場委員

- 新型コロナウイルス感染症の影響により鎖国していたような状況の下、他県においても様々な戦略を立ててくると思う。その中でいかに宮城に来るといいことがあるというような情報発信が表に出ていない。観光PRをどこで、どのようにやるのかというところが必要である。

事務局（観光政策課）

- このプランの中に細部の記載をすることには限界があった。ターゲティングや趣味趣向にマッチした、テーマ性を持った情報発信が必要だと感じている。アウトドアなどの人

気テーマ、産直などの購買行動、そのような行動の変化を踏まえながら、的確な情報発信に取り組みたい。

小松委員

- アフターコロナにおける観光客の回復にはプロモーション活動が非常に大切だと思う。旅行業界においてもデジタル化が進み、ネットエージェントが非常に力を持つようになっており、そちらのエージェントへアプローチも必要となってくる。プロモーションのやり方等、コロナ以前とのやり方を変えていこうとしているのかお尋ねしたい。

事務局（観光政策課）

- 首都圏キャラバンなどはこれまで活動できなかったが、誘致協などと一緒に取り組むを展開していく予定にしている。一方でネットエージェントの取扱いが多くなっていることも承知しており、今後、それらへのアプローチの方法を誘致協や宿泊事業者の方々などと相談しながら進めていきたい。

加藤委員

- 先月、利府町でトヨタのラリーのイベントがあったが、豊田社長から宮城は魅力ある場所で来年もまたやりたいとの話をもらった。滞在型のプランとして、スポーツ、例えばモータースポーツやサイクルスポーツのようなイベントを開くことによって、その目的と一緒に宿泊や観光という形につながる。また、行政同士の連携により、隣接の市町村内にも周遊できる。是非ともそういうイベント的なものを活用した集客を考えていただきたい。

事務局（観光政策課）

- 観光プランの中でどのようなイベントをやるかまでは記載していないが、イベント、プロスポーツ、祭りなどが県内で行われることによって、宿泊需要が生まれることから、そのような流れをつくっていききたい。また、国で行われる宿泊需要喚起策との相乗効果を七図りながら、非常に厳しい宿泊事業者の経営状況を支援できるような取組を進めていきたい。

大沼委員

- プラン最終案については、特に問題ないと思う。
- 県民用調査結果の宮城県及び居住地の満足度の選択肢に「観光地としての魅力」「観光施設の整備」「食事のおいしさ」という項目があるが、それぞれ具体的にはどのようなものをイメージしているのか。

事務局（観光政策課）

- 県及び居住地の観光地、観光施設、食という項目において、回答者それぞれがイメージし、感じるところを評価していただいたものと理解していただきたい。

大宮司委員

- プランは全体的に網羅され、圏域会議での意見も取り入れられ、わかりやすく良いものになった。自分としても会議の過程で見えてきたものがいろいろあり、良い機会を与えていただいた。
- 戦略としては新しい生活様式などの変化への対応や良い方向へ変えていくという視点になっていると思うが、観光客が見ているものは未来のものではなく、今ある東北らしさ、仙台らしさであるので、現在あるものを保存する、守っていくという視点も必要ではないか。
- 戦略の中に観光産業と関連産業、農林水産業との連携ということがある。例えば松島は牡蠣を売りにしているが、その業界は先細りで担い手が少なくなっており、それに伴い漁港の景色も変わっていくことが懸念される。そういった関連産業の担い手の問題についての視点も必要ではないか。

事務局（観光政策課）

- その視点は非常に重要と考えており、観光資源が有する自然や環境への配慮、身の丈にあった観光の提供の仕方、また、本来持っている魅力を壊してまで高い単価で消費してもらうことではなく、本来持っているものを有効に活用しながら進めるということ、サステナブルツーリズム、すなわち持続可能な観光という言葉で表現しているところである。
- 農林漁業体験の部分も、観光の一つの切り口として小中学校での体験プログラムの中で非常にニーズが高い分野となっている。そのような場面でも、自然環境の維持、保護を行いながら提供できるように努めて参りたい。

島谷委員

- 最終案2ページ目にある「新・宮城の将来ビジョン」について、この計画とリンクする大変重要なところだと思うが、政策推進の基本方向4本の柱、持続可能な未来のための8つのつくる、18の取組について記載がない。報告書後半の資料・コラムの中に抜粋などを付け加えてもらおうとわかりやすいのではないか。

事務局（観光政策課）

- そのように対応したい。

林委員

- 最終案では、課題が見える化され、今後の方向性がわかりやすくまとまっている。今後はこれをどう活用していくのかということが課題。宮城に住んでいる人が宮城の魅力を理解していない現実があるので、地元の人にもしっかり理解してもらうことが大切である。
- 企業の役割として地域貢献をすることが重要だと思う。例えばホテル業だと、食材はなるべく地元のものを使い、その情報を発信する。地域の魅力を発信しながら、地域貢献も一緒にやっていくことが、各企業に求められる。
- 観光客が喜ぶであろうものを作るのではなく、地元の我々が喜ぶもの、誇れるもの、楽しめるものを作っていく。それが外国人や観光客にも喜んでもらえることにつながるし、そのような魅力をいっぱい作ることによって、長期滞在につながる。地域の魅力に貢献できるようなことを、観光に携わるものだけではなく、広く、すべての方々が行えば、魅力ある県や市になっていけると思う。